

フィンランドにおける資料展報告

兼 築 信 行（前副館長／文学部助教授）

EAJS(the European Association for Japanese Studies) 第9回大会がフィンランドのラハティ(Lahti)で開催されるに際し、本学図書館所蔵の日本文学関係特別資料を展覧に供して欲しい旨の打診がヘルシンキ大学図書館からあった。本学とヘルシンキ大学の間には学術交流協定が結ばれている。この要請に応え、資料展示が企画された。

規模と内容については、2000年3月に来日した同大学のRein Raud教授との間で綿密な打合わせを行ない資料を選定した。学会の研究発表で取り上げられる作品を織り込みながら、著名な作品を中心に、以下のような出陳リストが出来あがった。

源氏物語（ヘ2-4867-51）桐壺（1）幕木（2）

古今和歌集（ヘ4-5299）

新古今和歌集（ヘ4-8062-1）

持統天皇歌軍法（ヘ7-3029）

女殺油地獄（ヘ7-4334）

つれづれ草（ヘ10-6865）

伊勢物語（ヘ12-4353）

好色一代女（ヘ13-4146-1,2）

仁勢物語（ヘ13-4179-1,2）

勝絵（チ4-826）

承安五節絵（チ4-6304）

光悦謡本（チ12-3656）

卒塔婆小町（21）三井寺（37）楊貴妃（39）

五色の射式之巻（ケ5-770）

以上を梱包し機内持込手荷物として筆者が携行、フィンエアー直行便にて搬送した。ヘルシンキ・ヴァンター空港からは高速バスで直接ラハティに向かい1泊、8月21日の午前中に展示会場となる市図書館（EAJS文学セッションの会場）へ資料を運び込んで会場を設営した。その際にはEAJS会長であるPeter Kornicki ケンブリッジ大学教授や、ヘルシンキ大学のSonja Servomaa 博士、市図書館Anja Salemaa 司書の協力を得た。展覧資料は錠付ガラスケースに収めエントランスホールに並べた。それをインフォメーション担当者が常時監視する



ラハティ市図書館

良好な展示環境が実現された。キャプションは、英文のものを用意して行ったが、会場設営を見学していた一市民からフィンランド語のものは無いのかという至極当然の指摘があり、急遽作成していただいた。また、英語とフィンランド語によるリーフレット2種を作り、参観者に供した。

正式の展覧期間は、EAJS開催期間中の8月23日より26日までであったが、実質上は21日午後から公開を始めたことになる。展示名はOld Japanese manuscripts from the collection of Waseda University となされた。

22日はヘルシンキに移動、ヘルシンキ大学図書館を訪問し、Esko Häkli 館長とKauko Laitinen 氏の案内で館内施設および建設中の地下書庫を視察した。図書館はヘルシンキ市街の文字通り中心である大聖堂の西隣に面している。古典的な外観と近代的テイストの内装がマッチし、独特の雰囲気をもった図書館と言えるだろう。ただし内部構造はかなり複雑であった。国立中央図書館の機能を合わせもっている（納本制度がある）。音楽資料の部門が充実していることが特に印象的であった。シベリウスの自筆譜をはじめ多くの楽譜を収蔵しているというお話である。地下書庫も大規模なもので、幅23m長さ180mの床面が3層、それぞれに集密書架が配されて仕上げ工事の段階にあった。視察が終わると、両大学図書館間の協力について

意見交換を行なった。この間、5時間にわたって館長自ら応接して下さり、まことに恐縮であった。なお Häkli 館長は、1999年9月3日に本学図書館を公式訪問されている。その際には浦川道太郎館長と共通の言語（ドイツ語）で話し合った思い出を、楽しそうに語ってくださった。

さて、23日にはEAJSの開会式典が行なわれた。今度はラハティに移動。ヘルシンキとラハティ間は100kmほど、30分おきに高速バスの便があって、1時間半で到着する。式典は日本大使、ラハティ市長の列席のもと盛大であった。プログラムには民族楽器の演奏もあり、日本で開催される学会とはいささか趣を異にした、文化の香り高い催しである。Kornicki 会長は、開会の辞において、わざわざ早稲田の資料展観に言及され、特に運び屋の氏名まで紹介してくださった。なお8月23日付のフィンランド紙ESSに、展観の開催がカラー写真入りの大きな記事となっていた。ラジオの取材もあったとのことである。

こうして好評のうちに展示を終了したが、撤収時には、特に申し出のあった研究者の立ち会いと資料閲覧を認めた。期間中の参観者数は公式集計で9300名とのこと（いくら何でも多過ぎると思う方もあろうが、何度確かめてもこの数字で正しいという。会期中の総入館者数かとも思われるが、

図書館の入り口に展示したのだから、それならばそれでまあ納得のいく数字ではある。荒唐無稽な大本営発表ではないことだけはご理解願いたい）。

以上で終われば、めでたくつつがない展観報告となるところだが、実は話には続きがある。撤収し再び梱包した資料を持ってヘルシンキに戻った。投宿先はソコス・ヴァークナで、ヘルシンキ駅の真横、というよりも国際空港行きバスの乗り場に一番近いホテルに宿をとったわけである。夕食を済ませて部屋に入り、やっと空が暗くなってきた（北欧の夏はなかなか日が暮れない）22:00過ぎ、突然警報器が鳴り出し、テレビがつき「Fire」とがなり始めた。何はさて置き資料の風呂敷包みをかかえ、ロビーに駆け降りる。ホテルの前には、大型消防車が2台。防火服に身を固めた消防士が飛び込んで来る。結局、タバコの煙にセンサーが過敏反応して警報が鳴ったと分かり、一件落着。

出発前に、中央図書館特別資料室の人たちと、常縁本徒然草を抱えたままで飛行機が墜落したら文献学者として本望だなどと冗談を言っていたが、いやはや冗談などを言うものではない（嗚呼実にわが国は「言霊の国」なのであった）。

成田空港に到着した副館長が、わき目もふらずそのまま早稲田大学中央図書館へ直行したことは、言うまでもない。

Syvän kulttuurin todistuskappaleet

LAHTE
JOURO TALLIMÄKI

Japanilainen kulttuuri on syvä. 1000-luvulla kirjoitettu romaani sisältää yhä antaa virikkeitä nykyajan kirjailijalle. Camjin taidon on japanilaisen kirjallisuuden merkittäviä tekijä. Sen on kirjoittanut naiskirjailija Murasaki Shikibu 1000-luvulta. Kirja liikkuu hovipiireissä ja peitettiin pöytäkirjojen esillä kehästä hautaan.

Lahden kaupunginkirjaston osasto on esillä vanhoja käsikirjoituksia. Japani-viikon puheenjohtaja Perna Koskenkorva kertoi näiden Wasedan yliopiston aarteiden olevan nyt ensimäistä kertaa Japanin rajojen ulkopuolella. Suomessa käsikirjoitukset nähdään ainoastaan Lahdessa.



Japanilainen ainekkuus voi ihaila Lahden pääkirjaston. Näyte kuvitustaidon.

"Käsikirjoituksista vanhimmat ovat ensimmäiset vuosikymmenet. Paimon kirjallisuutta on japanissa 1000-luvulta lähtien", sanoo Kornicki. Paimonkirja Murasaki Shikibun romaani painettiin ensimmäistä kertaa 1600-luvulla.

Laajasta romaanista on näitä oaa suurennettu.

Pauleryn kautta

Oppineisuuden ja hovieli-
mön kasvatusnasta nousi
valokuvattava kirjallisuutta.
Hovipiireissä sisälsi Kokin
waka-shu-niminen teos. Se
edustaa näytteen vanhin
käsikirjoitus. Täällä nähti-
vint kappaleen on valmistu-
nut Asukai Masachika 1400-
luvulla.

Varhaisin menetelmä oli
okoonaan vedostamista. Jo-
kaisen sivun teksti kuiverret-
tiin puulevyille. 1500-luvun
lopulla Korasta kokeutui
siirrettävin kirjoitimen pe-
rustava menetelmä. Koras-
kaiset olivat sata vuotta Ga-
tenborgia edellä.

Vieli uuden tekniikan saa-
pamisen jälkeen pelattiin
puuleikkauksen, koska se
mahdollisesti kalligrafisen laa-
den.

Syvän kulttuurin merkki
on sekin, että kulttuuri poikii
paradiisia. 1600-luvulla kau-
punkilaisyleisön tarpeisiin
suoitettiin klassisen kirjalli-
suuden paradiisia.

Käikestä kilpailtiin

Kuvitusta osuudesta he-
rittäsi rohkeudellaan huomi-
ota vitriini numero 10. Sen
rinnalla nykyajan yhdyntäiset
ja estommat sarjakuvaa-al-
bumitkin punastelivat hä-
mällä.

"Käikestä kilpailtiin, has-
suistakin aiheista", kertoo
Kornicki. Ilman päästämi-
nen ja fyysisen centralisoi-
sien vertailu ovat kehänneet
aiheksi paremmuudesta kil-
pailtaessa. "Kaikki on ollut
voin leikkiä", kommentoi
Kornicki karikatyyriä muis-
tuttavan piirroksen äärellä.

資料展の開催を報じたフィンランド紙ESS（2000年8月23日号）